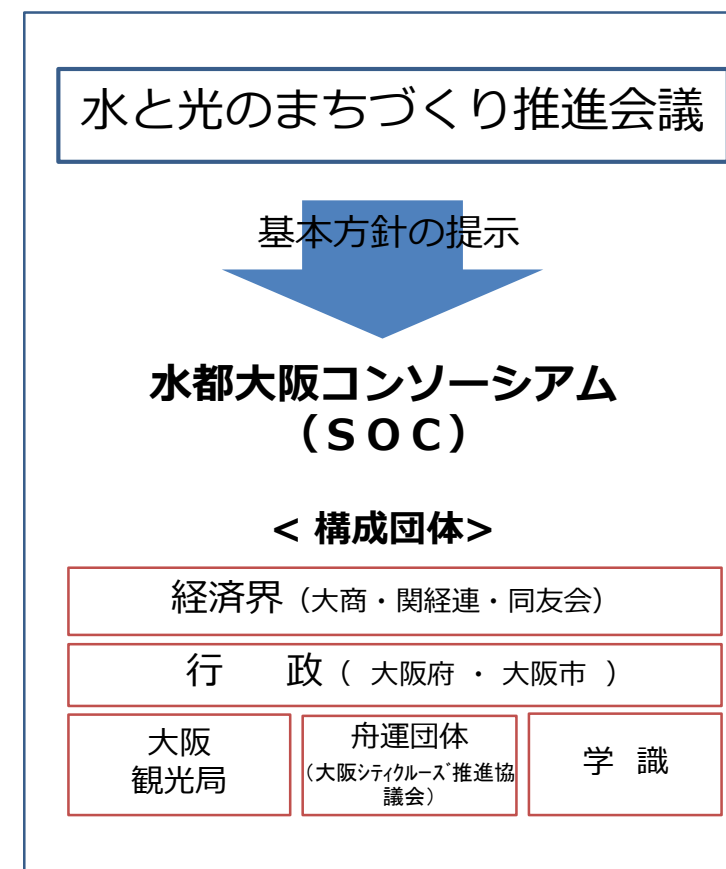


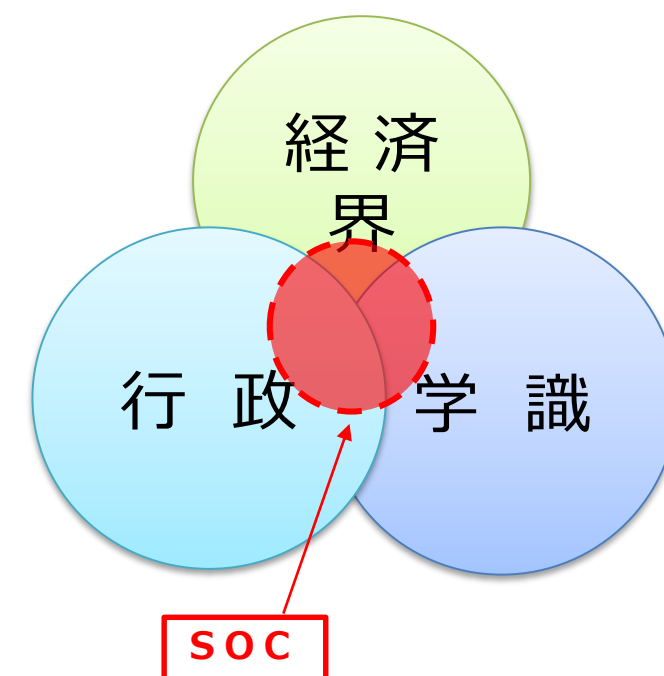
## 水都大阪の推進体制について（案）

名称		水都大阪コンソーシアム
役割		<ul style="list-style-type: none"> <li>「水と光の首都大阪」の実現に向けて、公民共通のプラットフォーム機能を有する組織として水都大阪コンソーシアム（SOC）を継続</li> <li>SOCはコーディネート機能（企画調整等※）を発揮するとともに、大阪が水都のトップランナーとしてオール大阪で取り組み、その活動を域内外へPR</li> </ul> <p>※企画調整等...様々な関係者を交えて議論するワーキンググループなどの運営を通して、新規プロジェクトや都市開発状況などを把握するとともに、水辺魅力創出や舟運活性化、ブランディング、観光、安全安心を推進</p>
期間		2021～2025年度
構成		経済界、行政、大阪観光局、舟運団体、学識者
委員長		大阪商工会議所 常務理事
副委員長		大阪府 都市魅力創造局長 大阪市 経済戦略局理事
委員		関西経済連合会 常務理事 関西経済同友会 常任幹事・事務局長 大阪観光局 常務理事 大阪シティクルーズ推進協議会 会長 学識者
事務局		事務局長（経済界） 事務局次長（大阪府次長級職員） 職員（企業出向等、行政（府市）職員）
事務所		大阪府咲洲庁舎（さきしまコスモタワー）内

## ◆イメージ



## ◆担うべき役割



2021年3月1日 改訂

## 水と光のまちづくり推進に関する基本方針（案） ～「水と光の首都大阪」の実現に向けて～

大阪では、2001年の「都市再生プロジェクト」採択以降、行政・企業・市民が連携し、『水都大阪』の再生に取り組んできた。その結果、都心部の河川に遊歩道や船着場が整備され、それらを活かしたクルーズや規制緩和を活用した水辺の民間ビジネスが生まれるなど、大阪はトップランナーとして、常にわが国の水都づくりをけん引し、さらなる都市ブランド向上に向けて取り組んできたところである。

また、公民が協力して進めた護岸・橋梁・高速道路橋脚の日常的なライトアップや、冬の風物詩として定着した「大阪・光の饗宴」など、大阪は日本でも有数の美しい光景観を楽しめる都市ともなった。

我々は、2025年の大阪・関西万博及びさらにその先に向けて、魅力溢れる「水と光の首都大阪」を実現し、その結果、世界の都市間競争のなかで、域外から人を惹きつけ企業や新たな投資の呼び込みにつなげることで、大阪の持続的な成長を推進するため、以下の方針を掲げ、オール大阪で取り組む。

### ◆世界に誇る「水と光のシンボル空間」の実現

大阪城から中之島、大阪湾までをつなぐ「東西軸」と都心部をロの字に流れる「水の回廊」を中心に、船が行き交い、人々が水辺で集い憩う、他都市に類を見ない水都大阪の修景づくりを進める。また、御堂筋や中之島を光で彩るとともに、民間主体の光のプログラムとも連携し、圧倒的な光景観を創出する。

こうした取り組みを通じて、世界に誇る「水と光のシンボル空間」を実現する。

### ◆水と光の広がりや厚みによる新たな魅力創造

多彩な民間の知恵を最大限活かした「水の回廊」とベイエリアとの連携、「大阪・光の饗宴」における地域連携の強化などによって、「水」と「光」の魅力大阪のまち全体への魅力に広げるとともに、文化・スポーツ・グルメ・イベント等との連携によるナイトカルチャーや観光メニューの創出などによって新たな魅力を創造する。また、淀川から2025年大阪・関西万博会場へのアクセス向上に公民連携で取り組む。

### ◆誰もが憧れる「水と光の首都大阪」ブランドの確立

大阪を訪れる人々に感動を提供するとともに、多様な主体が連携し、大阪の「水」と「光」の魅力戦略的・効果的に国内外に発信することで、世界の誰もが憧れ、大阪の人々が誇りにできる「水と光の首都大阪」ブランドを確立する。

### ◆多彩な「民」の参画とビジネスの創出・活性化

「水」と「光」を活かした都市魅力創造の好循環の実現に向けて、公民の役割分担と強い連携のもと、これまでの取り組みの成果を踏まえ、水都大阪の持続可能な成長をめざす公民共通のプラットフォーム「水都大阪コンソーシアム」によるコーディネート機能や、「大阪・光の饗宴」の開催による魅力づくり等を通じて、企業やクリエイティブな人材等の多彩な「民」や学、地域、市民の参画を促し、新たなビジネスの創出・活性化やまちづくり活動の促進を図る。

以上

# 水都大阪の取り組みについて

2021年1月  
水都大阪コンソーシアム



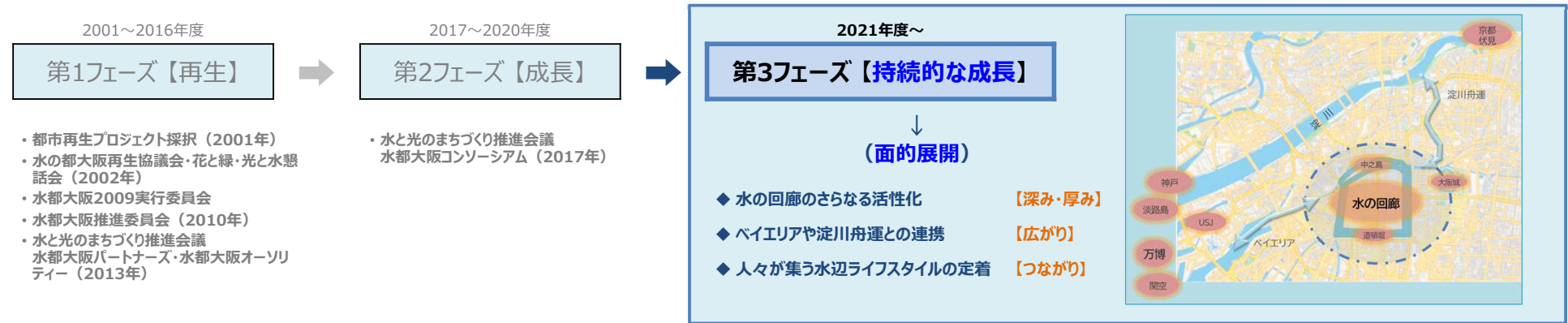
# 水都大阪コンソーシアム4年間（2017年度～2020年度）の取組み

方針	2020年度末に目指す姿	4年間の取組み（再生から成長へ）	次期水都大阪の方向性（持続的な成長）
<p>より、公民の力を結集し、水と光の魅力を水辺にさらなる「<b>広がり</b>」と「<b>厚み</b>」を創出に</p>	<p>■水辺の拠点・観光資源をつなぐほか、ベイエリアや淀川舟運の胎動との連携によるネットワーク形成を通じ、水都大阪の魅力に「<b>広がり</b>」を創出</p>	<p>■<b>舟運活性化、水辺・水上観光メニューの充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○舟運の魅力向上のための水辺拠点の活性化（八軒家浜、ほたるまち等）</li> <li>○新たなクルーズの造成</li> <li>○舟運基盤整備（舟運航行安全検討会への参画等）</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●水辺事業者や地域との密接な連携</li> <li>●安全対策のさらなる強化、新型コロナ対策</li> <li>●舟運利用者の利便性向上</li> </ul>  <p>ラバー・ダック設置</p>  <p>春待ちあったかクルーズ</p>  <p>シンボルツリーを巡るナイトクルーズ</p>	<p>○行政、経済界に学識者を交えた<b>オール大阪</b>での取組みを加速</p> <p>○2025年度及びその先を見据え、これまでの歴史と中長期的展望を共有</p> <p>➔「<b>水都大阪ビジョン</b>」策定（SOCがとりまとめ）</p>
	<p>■水辺に点在する観光・文化施設等との連携、ライトアップなどの光景観を活かしたナイトカルチャーなど、水都大阪の魅力に「<b>厚み</b>」を創出</p>	<p>■<b>水辺の誘客、にぎわいや魅力の創造</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大規模イベント開催による水都訴求</li> <li>○中之島公園水辺利活用促進</li> <li>○東横堀川周辺の魅力向上</li> <li>○中之島ゲート利活用促進</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●イベント実施方法の見直し、舟運連携強化</li> <li>●次の目玉となる新たなエリアの開拓</li> </ul>  <p>水都大阪フェス</p>  <p>水辺のまちあそび</p>  <p>中之島漁港</p>	
	<p>■水都の魅力発掘から発信や外部との様々な連携によってブランディング・プロモーションを強化することによって、「<b>広がり</b>」「<b>厚み</b>」の相乗効果を創出</p>	<p>■<b>ブランディング・プロモーション強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ブランディング促進</li> <li>○外部連携によるPR強化</li> <li>○次世代啓発</li> <li>○観光化支援（商談会参加等）</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地元大阪へのPR、シビックプライド醸成や若年層へのPR</li> </ul>  <p>キー・スケープ発掘</p>  <p>大学との連携</p>  <p>商談会参加</p>	
<p><b>水都大阪の推進体制</b> （推進会議 + SOC）</p>		<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○公民の長所を活かした連携の実践</li> <li>○水辺や水上におけるにぎわいづくりに寄与</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●関係者を交えた横断的連携の強化</li> <li>●適正なルールの下での柔軟な対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公民共通のプラットフォーム機能の強化</li> <li>○企画調整の機能発揮</li> <li>○トップランナーとしてのオール大阪による取組み</li> </ul>
<p><b>水都大阪の成長</b>（2020年度目標：舟運利用者数） 78万人（2015年度） ➔ 100万人（2020年度）</p>		<p>119.9万人（2017年度） ➔ 122.7万人（2018年度） ➔ 101.4万人（2019年度） ※新型コロナウイルス感染症の影響により2020年度は激減見込（上期実績：2.2万人）</p>	<p>○新型コロナの影響による水辺のにぎわいの落ち込みを踏まえて目標設定</p>

# 水都大阪ビジョン – 水都大阪のめざす姿（2025年度及びその先を見据えて） –

■ 水都大阪のめざすもの（水都大阪ビジョン） → 世界に類をみない第一級の水都の創造とともに、住まう人・携わる人・訪れる人を笑顔に

- 歴史と文化に培われた水都大阪を次世代につなぐ
- 世界の多くの人々が水都といえば大阪を思い起こす魅力あるにぎわい空間の創出
- 安全・安心で環境と共生する持続可能な水都大阪の確立



【水都大阪の課題】
■ コロナ禍や国際情勢の影響で激減した舟運利用者の増加策（国内向け）
■ 水都大阪の魅力のさらなる創造・発信（大阪・関西万博開催のインパクト活用等）
■ 水辺周辺の恒久的なにぎわいづくりの支援・啓発の継続と拠点間の連携強化
■ 舟運利用者の利便性向上と利用者ニーズに沿ったクルーズ商品の開発・提供の充実等による水の回廊のさらなる活性化
■ 舟運事業者の増加による事故やインシデント等を未然に防ぐための航行安全のルール策定や、安全講習会等の実施、および新型コロナ対策
■ 船着場周辺の魅力づくりや新規事業者の参入、東西軸の活性化
■ 民間による新たな大規模開発等との連携

基本コンセプト	
■ 水辺・水上観光メニューの拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな水辺・水上観光メニューの開発（スマート水都等）</li> <li>・アクティビティ・スポーツの推進</li> <li>・拠点の魅力づくりと拠点間の連携強化</li> </ul> 
■ 舟運のさらなる活性化を推進（水の回廊を中心に）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンボルとなる空間の創出</li> <li>・水辺の景観づくりや観光拠点の創出</li> <li>・魅力あるクルーズの造成（万博連携等）</li> </ul> 
■ 安全・安心な水都大阪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・航行ルールの確立や普及・啓発、安全対策</li> <li>・舟運利用に関する感染予防のガイドラインの徹底</li> <li>・まちの施設と水辺が一体化された、安全な環境整備</li> </ul> 
■ 民間ビジネスの創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民共通のプラットフォーム機能の強化</li> <li>・重点エリアにおける活性化（堂島浜～中之島GATE等）</li> <li>・将来ニーズを見据えたマッチング促進</li> </ul> 
■ ブランディングの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「水都大阪」の歴史・文化、安全安心の発信</li> <li>・効果的なPR強化（万博連携等）</li> <li>・シビックプライド醸成、若年層へのPR</li> </ul> 

注) ビジョン実現に向けたアクションプランは別途作成

【報告事項1】


 AQUA METROPOLIS OSAKA

 第12回水と光のまちづくり推進会議  
 2021年1月14日

# 【参考資料】 水都大阪のこれまでの取り組み

● 2001年に「水都大阪の再生」が国の都市再生プロジェクトに採択されて以降、水の回廊沿いの遊歩道や船着場の整備、橋梁や護岸等のライトアップなどのハード整備を行うとともに、規制緩和による河川空間でのにぎわい拠点の創出や、水都大阪フェス等のソフト事業を展開し、水都に相応しい水辺を活用した魅力づくりを推進

年度	2001~2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
ハード	船着場	■大阪ドーム千代崎港 ■大阪ドーム岩崎港			■八軒家浜船着場		■大阪国際会議場前港（再整備） ■大阪市中央卸売市場前港 ■ローズポート	■若松浜船着場				■本町橋船着場（本整備）					■大阪城港（実施設計）
	水辺の拠点空間	■とんぼりリバーウォーク（湊町～太左衛門橋完成）				■福島港（ほたるまち港）	■中之島公園（再整備）	■中之島バンク	■とんぼりリバーウォーク（全体完成）							■キタハマミズム	
	ライトアップ	■水晶橋（1990）				■淀屋橋・大江橋・錦橋	■中之島ガーデンブリッジ	■難波橋・天神橋	■玉江橋・堂島大橋・天満橋		■銚流橋				■梅檀木橋		
	みどりあふれる遊歩道										■天満天神の森 ■若松浜遊歩道			■木津川遊歩空間（トコトコダン）			
ソフト	水都フェス等					■水都大阪2009	■水都賑わい創出プロジェクト2010		大阪水辺バル			■水都大阪2015プロジェクト	■水都大阪2015シンボルヤー				水辺のまちあそび
	舟運・にぎわい創出	■落語家と行くなわ探検クルーズ就航（2003～） ■とんぼりリバークルーズ就航					■河川敷地占用許可準則緩和（民間占用可能）	■大川さくらクルーズ就航（2009～）	■中之島GATEササエ社会実験（～2019）				■中之島リパークルーズ就航				
体制等		■「水都大阪の再生」が国の都市再生プロジェクトに採択（2001） ■「水の都大阪再生協議会」「花と緑・光と水懇話会」設立（2002）						■川のはちけんやオープン	■とんぼりリバーウォーク民間運営開始	■大阪城御座船就航							
				■水都大阪2009実行委員会			■水都大阪推進委員会				■水と光のまちづくり推進会議 水都大阪パートナーズ 水都大阪オーソリティー			■水と光のまちづくり推進会議 水都大阪コンソーシアム			

3

# 【参考資料】アクションプラン –水都大阪ビジョン参考資料–

注) 本アクションプランは世間情勢や周辺環境などを鑑みながら、水都関係者との継続的な議論を通してブラッシュアップするものとする

## 基本コンセプト

推進方策	
シンボル空間の創出とにぎわいづくり	誰もが水都大阪と言えば思い浮かべるシンボル空間の創出と、にぎわいづくり
各エリアの活性化と主要拠点との連携強化	民間ビジネスを活かし、各エリアの魅力と舟運を合わせたつながりを創出
回遊性の向上と舟運基盤の充実	多様な航路実現のための基盤整備の充実
舟運利用者の増加策と利便性向上	他の交通機関等との接続性向上、待合・案内機能の充実と災害時誘導案内
安全・安心な水都大阪の確立	水上交通の安全航行の確立に加え、夜間利用を含む安全・安心対策の充実
ブランディング、広報・プロモーションの充実	水都大阪を象徴する魅力的な風景(キー・スケープ)を国内外の人々に発信によってブランディングを強化、歴史や文化を象徴する風景の訴求、様々な外部連携を通して水都大阪をPR
水の回廊からベイエリア・淀川への広がり	水の回廊とベイエリア・淀川の水辺拠点をつなぐ・周遊する日常的なクルーズの充実
環境の保全	水辺のごみや騒音を低減し、より親しみやすい空間の創出と舟運における新エネルギーの活用

×

エリアごとの取組み	
大川エリア	毛馬閘門ライトアップ、エリアを活かしたクルーズ、係留施設整備、安全対策等
中之島東部エリア	中之島公園利活用、八軒家浜船着場・夜間景観の充実、東西軸の活性化、安全対策等
中之島西部エリア	まちの再開発との連動、シンボルモニュメント建造、夜間景観の充実、東西軸の活性化、安全対策等
大阪城エリア	船着場整備とにぎわいづくり、大阪城公園と水都の連携、安全対策等
東横堀川・道頓堀川エリア	東横堀川・β本町橋整備とにぎわいづくり、道頓堀川クルーズの充実、環境改善、安全対策等
安治川・木津川・尻無川エリア	中之島GATE活用、安治川の魅力づくり、木津川・尻無川のにぎわいづくり、三大水門リニューアル、安全対策等
ベイエリア	夢洲の船着場整備、万博との連携、水の回廊とのネットワーク形成等
淀川エリア	淀川大堰閘門整備、京都へのクルーズ整備、淀川を活用した新大阪周辺のまちづくり等

### 目標達成に向けた推進体制

- 推進体制は継続が望ましい

### 水都大阪がめざすべき成長目標 <概ね2025年度までを目途>

- 規制緩和の積極的活用とともに、エリア毎の特色を活かした魅力づくりによって、水の回廊全体のさらなる活性化を推進する
- 交通の利便性向上や、安全・安心で環境と共生する「持続可能な水都大阪」の実現などによって、水辺におけるライフスタイルの定着をめざす
- 水の回廊と今後の開発や整備が期待されるベイエリアや淀川をつなぐことで、水都大阪の広がりを図る

※コロナ影響や経済状況などを踏まえ、具体的な成長目標は各年度で設定する

※2021年度には、次の目玉となるエリアを議論する場を設定する

# 【参考資料】ロードマップ - 水都大阪ビジョン参考資料 -

	2021	2022	2023	2024	2025
	▶東京2020オリンピック・パラリンピック	▶ワールドマスターズゲームズ2021関西	▶うめきた2期 地下化・新駅開業 ▶北大阪急行延伸開通（予定）	▶未来医療国際拠点開業（予定）	▶大阪・関西万博 ▶淀屋橋駅西地区・東地区竣工（予定）
	新たな魅力づくり				
	恒久的なにぎわい創出・基盤整備				
	にぎわい・舟運復活				
水辺・水上観光メニューの拡大	■観光化支援（アクティビティ推進・スポーツイベントの誘致 → SUPやハイドロフライン等の世界大会の開催継続） ■新たな水辺・水上観光メニューの開発（大阪・関西万博との連携、拠点間連携、歴史文化の活用、中之島東西軸の活性化、スマート水都の検討）				
舟運のさらなる活性化を推進	■舟運復活刺激策（シンボル空間創出等） ■新たな航路開発検討（社会実験等） ■新航路運用開始 ■大阪・関西万博との連携 ■水辺の拠点づくり・観光拠点の創出（ベイエリアや淀川への広がり）				
安全・安心な水都大阪	■新型コロナ対策徹底と安全PR（感染予防ガイドラインに基づく） ■舟運利用者の利便性向上検討 ■MaaS導入社会実験 ■MaaS本格運用 ■水上の安全・安心確保（航行ルールの普及・啓蒙、係留施設・船着場の整備） ■安心して利用できる水辺の環境整備				
民間ビジネスの創出	■重点エリアの活性化（大阪城、八軒家浜、堂島浜、中之島公園、東横堀川とβ本町橋、中之島GATE、タグポート大正等） ■公民共通のプラットフォーム機能の発揮 ■情報交換の場の設定・活用（将来ニーズを見据えたマッチング促進）				
ブランディングの強化	■水都大阪のPR（大阪圏周辺） ■水都大阪のさらなる発展的PR（大阪圏以外、若年層向け） ■水都大阪のさらなる発展的PR（+インバウンド） ■水都大阪の効果的PR（マイクロツーリズムの観点、ホームページ・SNS活用、キー・スケープ発信、歴史文化 & 安全安心のPR等）				

## 拠点・エリアの魅力向上（振興策と安全安心策は並行検討）

大川			歴史的建造物を活用したクルーズ造成 夜間利用促進に向けた環境整備		
中之島東部			中之島公園のさらなる利活用 八軒家浜のさらなる充実		
中之島西部		喫水調整機能付船舶の整備・導入			東西軸の活性化
		夜間景観の充実、まちの再開発との連動、シンボルモニュメントの建造			
大阪城	船着場整備とにぎわいづくり 大阪城公園と水都の連携とにぎわいづくり			大阪城公園と水都の連携とにぎわいづくり	
東横堀川 ・道頓堀川			東横堀川の景観改善・地先利活用 β本町橋整備とにぎわいづくり、道頓堀川クルーズの充実		
安治川・木津川 ・尻無川			三大水門のリニューアル 中之島GATE利用の整備（海と河川の結節点としての機能充実）		中之島GATEの活性化
ベイエリア			水の回廊との連携（夢洲の船着場整備、万博との連携）		
淀川			水の回廊との連携（毛馬閘門ライトアップ、淀川整備との連携）		

世界に類をみない第一級の水都の創造とともに、住まう人・携わる人・訪れる人を笑顔に





=大阪発・光が文化になる季節=



<開催期間>

**2020年11月3日（火・祝）～2021年1月31日（日）**

大阪の夜を明るく彩る「希望の光」

コアプログラム

- ◆御堂筋イルミネーション2020
- ◆OSAKA光のルネサンス2020

2020年11月3日（火・祝）～12月31日（木）59日間

※新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえ、中央公会堂  
プロジェクションマッピング等は、開催中止。

エリアプログラム

- ◆府域各所で展開する“14団体” “16プログラム” と連携

## 大阪・光の饗宴2020開宴式

一夜限りの特別プログラム！  
夜の大阪のシンボルストリートを満喫！

開催日程：11月3日（火・祝）

実施時間：16：30～19：00

開催場所：久太郎町3交差点～新橋交差点

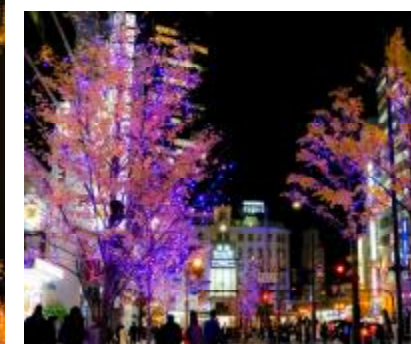
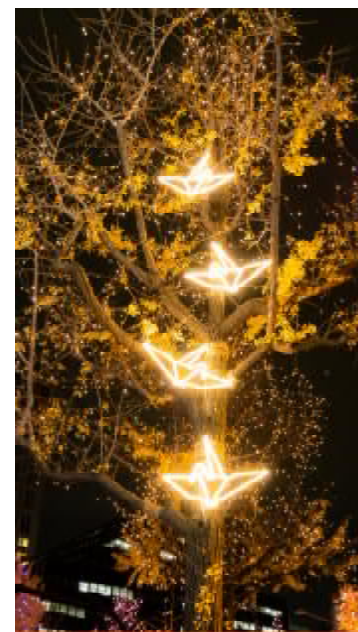
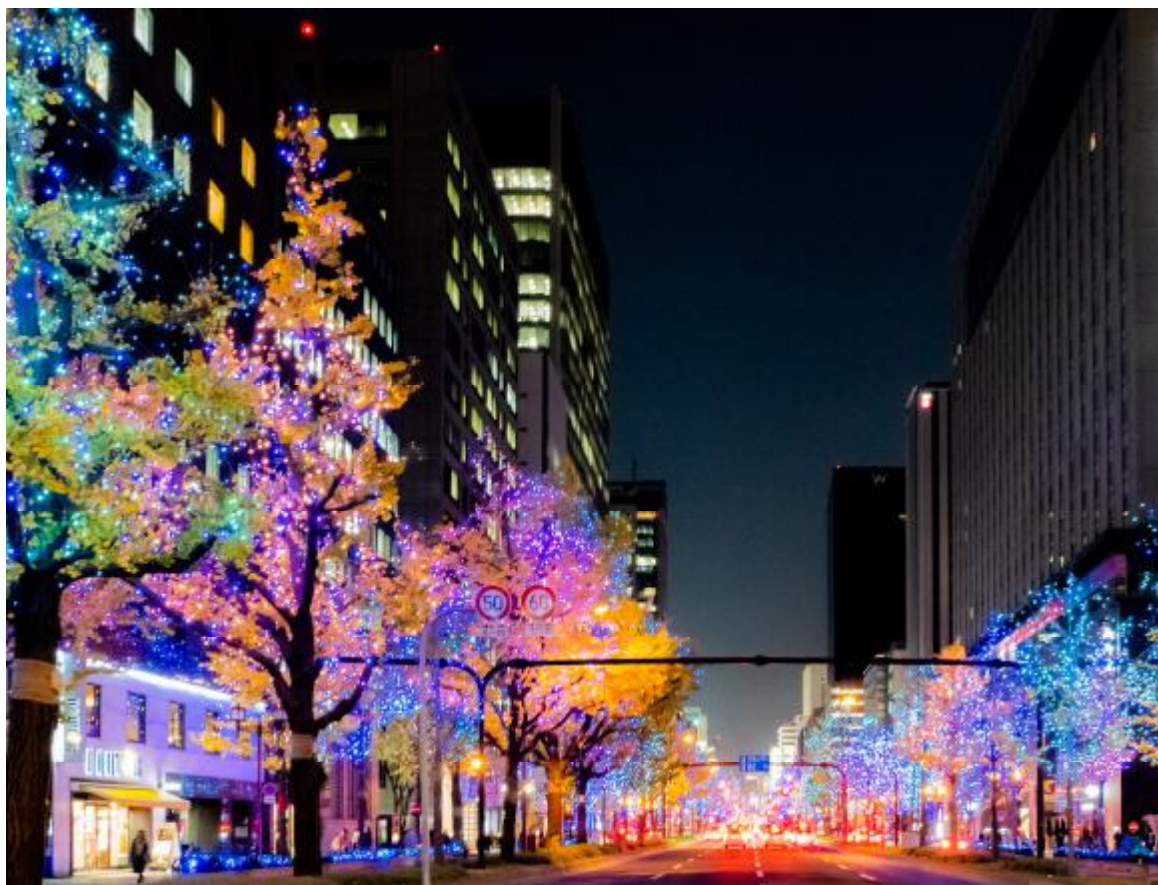


## 御堂筋イルミネーション2020

開催日程：11月3日（火・祝）～12月31日（木）

点灯時間：17時頃～23時

開催場所：御堂筋（阪神前交差点～難波西口交差点）



## OSAKA光のルネサンス2020

大阪市庁舎正面イルミネーションファサード、フォトモニュメント  
中之島イルミネーションストリート

開催日程：11月3日（火・祝）～ 12月31日（木）

点灯時間：17時頃～23時

開催場所：大阪市役所周辺

※12月14日（月）から実施予定だった中央公会堂プロジェクション  
マッピング等については、新型コロナウイルスの感染拡大状況を  
踏まえ、開催中止。



中之島イルミネーションストリート



大阪市庁舎正面イルミネーションファサードと  
フォトモニュメント

# 府域各所から “14団体” “16のプログラム”が参加

## 【大阪市内のプログラム】（7団体 9プログラム）

1 Winter Voyage Tree



UMEDA MEETS HEART実行委員会

2 Candy Castle Happiness



3 中之島ウエスト・スマイル  
アートプロジェクト「ひかりの実」



中之島ウエスト・エリア  
プロモーション連絡会

4 大阪ならではのイルミネーション  
～豊臣城下町と大阪歴史探訪の旅～



大阪城イルミネージュ  
実行委員会

5 光の滝



Mプロジェクト実行委員会

6 Welcoming あべてん  
ウィンタープレゼント2020



Welcoming アベノ・天王寺  
キャンペーン事務局

7 音と光のウインター  
イルミネーション2020



大阪ベイトワーウインター  
イルミネーション2020委員会

8 赤レンガ倉庫クラシック  
イルミネーション



築港・天保山ウインターイルミネーション実行委員会

9 築港ベイエリア  
イルミネーション



## 【大阪市以外のプログラム】（7団体 7プログラム）

10 いばらきイルミフェスタ  
灯 (AKARI)



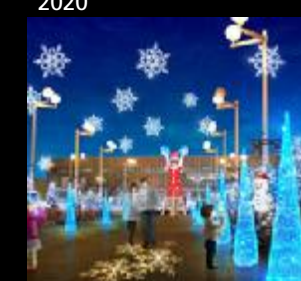
いばらきイルミフェスタ  
実行委員会

11 島本町イルミネーション



島本町イルミネーション  
実行委員会

12 大東市スマイルミネーション  
2020



大東市イルミネーションイベント  
実行委員会

13 ウィンター  
イルミネーション



羽曳野市

14 堺イルミネーション2020



堺市中心市街地活性化協議会  
公益社団法人堺観光コンベン  
ション協会

15 木楽座ストリート  
イズミネーション2020

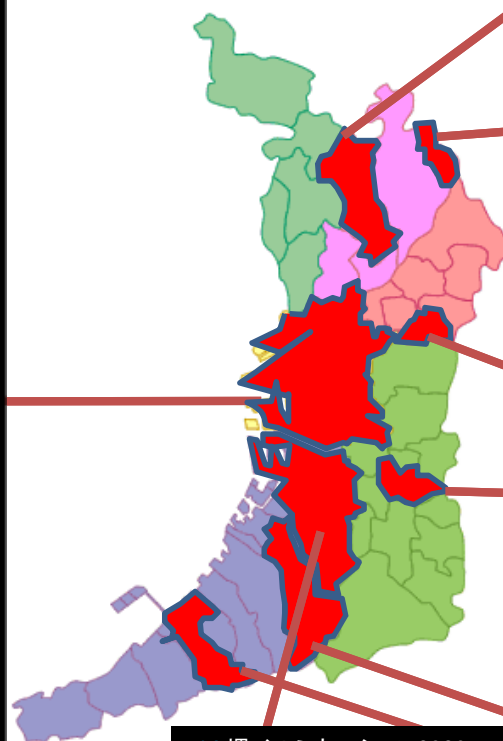


木楽座ストリート組合

16 りんくう光の饗宴



りんくうまちづくり協議会



大阪・光の饗宴2020におけるメディア等の掲載実績

(※12月31日時点実績)

媒体別	2020年度実績
テレビ	24
ラジオ	8
新聞	56
情報誌等紙媒体	30
パンフレット、チラシ、ポスターなど広告物	23
ウェブ	1,009
<b>合計</b>	<b>1,150</b>

プログラム別	2020年度実績
大阪・光の饗宴 全体 (エリアプログラム含む)	1,069
御堂筋イルミネーション 単独	29
OSAKA 光のルネサンス 単独	52
<b>合計</b>	<b>1,150</b>

# 第12回 水と光のまちづくり推進会議資料

2021年1月14日

光のまちづくり推進委員会



## 動き

- 2004年 光のまちづくり企画検討委員会設立  
光のグランドデザイン（光のネックレス構想を含む）策定
- 2010～2019年 2020構想スタート
  - ➡ 第1フェーズ(2010～2013)、第2フェーズ(2014～2016)、第3フェーズ(2017～2019)
  - ➡ 「水と光の首都大阪」のブランドを確立

## 成果

- 水と光の首都大阪に向け、中之島エリアにおいて官民一体となった世界を魅了する夜間景観が形成。
- 中之島での成功事例を他エリアに拡大 ➡ 「エリア別光のまちづくり検討資料」の策定、  
「光のまちづくり技術指針(第2版)」(改定)
- 永続的な夜間景観の形成 ➡ 「メンテナンス検討資料」の策定・公開
- 大阪市景観計画において、「大阪光のまちづく2020構想」などの関連計画と整合を図りながら、  
夜間景観形成に取り組むよう定義された。

## 課題・予見

- 機器更新の財源確保、永続的な夜間景観形成のための設備維持・更新

## 2030年に向けた方向性の整理

○これからの10年は、「水と光の首都大阪」をよりオンリーワンに輝かせ、期待感を喚起していく必要がある。

### 「水と光の首都大阪のブランド」

2020構想

2030構想

【ブランド】

「確立」



「浸透・発信」 (取組みの発展・拡大)

光のまちづくりに関する新たな仲間、関わりある人々を増やす事

※「官民協業」というよりは、「総合力」で牽引

【前提】

水と光の首都大阪  
(歴史) × (社会) = (新しいものの創出)

光が「水の都」に果たすべき役割は、「大阪らしさ」を際立たせる事であり、その結果、「水の都・大阪」を通じて、「光」への関心を高め、光のまちづくりに繋げていく事。  
単に水と調和した景観を生み出すだけでなく、新たな文化や産業・技術にスポットを当てる事が光の意義。



○光のまちづくりにより、新たな文化や産業・技術にスポットを当て、新たな仲間、関わりある人々を増やす。  
→ ブランド価値を高めつつ、まちの人々を牽引

### 大阪光のまちづくり2030構想

取組の方向性 (案)

1. 海と川を包含する「水と光の東西軸(仮称)」の創出 → 3
2. 大阪都心での官民共創による夜間景観形成 → 4
3. 情報発信と情報共有のためのプラットフォームづくり

||

上記1～3の推進にあたり、光のまちづくりにおいてもSDGsに貢献する必要がある

「SDGsに向けた光のまちづくり」の定義・実践 → 5

## 1. 海と川を包含する「水と光の東西軸(仮称)」の創出

### (1) 中之島夜間景観の質の向上

- 夜間景観の価値を可視化し、重要さを明確に整理したうえで指針を示す。
- 中之島の風景は消滅を前提にせず、価値が高まれば、観光、まちの発展に繋がる。つくるにとどまらず、質を高め、価値を継承できるよう検討する。

### (2) 中之島の新たなエリアへの夜間景観の展開

- 中之島では今後、大阪中之島美術館、未来医療 拠点の建築が予定されており、さらに2031年には、なにわ筋線の開業により、新たな駅前開発が予定されている。今後、開発される新たなエリアに夜間景観を展開しつつ、なにわ筋線の開通に向け、機運を高める。

### (3) 海と川を繋ぐ取組み

- 大阪は古来、水際に発達した水都であり、水運交通網の発達が、大阪の基盤となる文化・産業・商業などをもたらしてきた。
- 中之島とベイエリアを繋ぐまちの活力の創出が、大阪らしい夜間景観の創出となる。中之島は産業・歴史などの源流であることから、海も含めた一体的発展を目的に、海と川を包含する『水と光の東西軸(仮称)』という新たなキーワードを創出、『水と光の東西軸(仮称)』で統一したコンセプトを設定し、展開する。



光のまちづくり推進委員会におけるターゲットエリアおよび『水と光の東西軸(仮称)』のイメージ

#### <光の都市軸>

- |          |   |
|----------|---|
| 1) 光の東西軸 | 東は大阪城エリア、天満・桜ノ宮エリアの一带とし、中之島を経て、西はUSJ、天保山へと続く、大川・堂島川・土佐堀川に沿った軸。咲洲・夢洲地区までを含む。 |
| 2) 光の回廊  | 光による新たな魅力創出を担う面的な広がり。個性的な近代建築や、緑豊かな公園などを対象とする。                              |
| 3) 光の南北軸 | 大阪駅周辺エリアを北端とし難波・湊町、更には天王寺・阿倍野までを南端とした御堂筋を中心とする軸線。                           |
| 4) 光の庭   | 八百八橋と呼ばれる大阪の資産である多数の橋が架かる、水上の回遊動線。  |

## 2. 大阪都心での官民共創による夜間景観形成

### （1）エリアの個性を際立たせる夜間景観創出

- エリアマネジメント団体との対話により、エリアの個性を際立たせ、魅力の再発見に繋げる夜間景観を創出する。  
中之島エリアに次ぐターゲットエリアは御堂筋、ベイエリア、うめきた、大阪城公園周辺、天王寺・阿倍野周辺とする。

### （2）行政計画等との連携を図る

- 大阪市では地域の特性を活かした景観誘導を行う「大阪市景観計画」および「大阪景観読本」において、夜間景観の誘導方策が位置付けられており、引き続き連携を図りながら推進する。
- 今後の御堂筋の目指すべき姿を示した「御堂筋将来ビジョン」など、各エリアの各種ガイドライン等と連携を図りながら推進する。

## 3. 情報発信と情報共有のためのプラットフォームづくり

- 大阪の景観を創りあげてきた人々がWEBサイトを紹介したくなり、また、各種情報を提供したくなるプラットフォームづくりを目指すこととし、WEBサイトのリニューアルを実施。

以下の情報を棲み分けたWEB発信をすべく整理。

- ①従前からの協議に基づく取り組みや成功事例など、既存情報の発信
- ②今後まちづくりを推進するための発信

## 「SDGsの達成に向けた光のまちづくり」の定義

○前述1.~3. を推進していくにあたり、光のまちづくりにおいても、持続可能な社会を実現するため、グローバル目標であるSDGsの取組みに貢献する必要がある。夜間景観に繋がるテーマを以下のとおり厳選し、2030年だけでなく、2025年にも目標を据え、今後推進する。

- 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8. 働きがいも経済成長も
- 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 11. 住み続けられるまちづくりを
- 12. つくる責任つかう責任
- 17. パートナーシップで目標を達成しよう



○持続可能な社会を実現するため、SDGsの取り組みに貢献しつつ、大阪光のまちづくり2030構想(案)に基づき、第1フェーズ(2020~2024年度)、第2フェーズ(2025~2030年度)を下図のとおり設定。

官民連携による光景観形成・継続 に向けた基盤づくり	2020	2021~ 2023	2024	2030年度
<p><b>1. 海と川を包含した「水と光の東西軸(仮称)」の創出</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中之島の夜間景観の質の向上</li> <li>○中之島の新たなエリアへの夜間景観の展開</li> <li>○海と川を繋ぐ取組み</li> </ul>	企画・検討			<p><b>大阪 都市格 の向上</b></p>
<p><b>2. 大阪都心での官民共創による夜間景観形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○エリアの個性を際立たせる夜間景観創出</li> <li>○行政計画等との連携</li> </ul>	企画・検討			
<p><b>3. 情報発信と情報共有のためのプラットフォームづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○光のまちづくりのプロモーション&amp;マーケティング</li> </ul>	WEB改定	情報共有・発信		